

京都府青少年育成協会会長奨励賞 「人と自分を比較して」

京都府立南陽高等学校

附属中学校

2年

上川 礼



あの人はどうしてあんなに上手なんだろう。それに比べて私はどうして上手くできないのだろう。みなさんもこういった「人との比較」をしてしまうことはありませんか。自分にできないことをできる人を見つけては自分と比較し、悲観的にとらえてしまう。そういった話を学校やSNS、いろんな場所で耳にします。私も実際、事あるごとに人と自分を比べてしまっていました。

私は小学生の頃、体育の時間が大嫌いでした。もともと運動は得意な方ではなく、むしろ大の苦手と言ってもいいほど不得意でした。体育に対してそんな感情を持っていた当時は運動ができない人はみんなに見られて運動神経がないだとか思われてしまうのにテストの点が低い人はみんなにバレないから不公平だなどという「人と比較すること」に関する不満感ばかり抱いていました。そんな当時の私ですから体育の時間というの

は憂鬱で仕方のない時間だったのです。体育の中で特に嫌だったのは持久走で、いつも最後まで残ってしまい、速く走れる人と比べて自分が嫌になってしまうこともありました。人と比べてばかりの当時の私は自分のためな所ばかりに気付いき、さらには自分とはとりのえのない人間だとも考えてしまっていたのです。

こうして悲観的に過ごしていた中、授業で自分の似顔絵を描くという時間がありました。自分の顔を見て似顔絵を描いていると、となりの席の人は私の絵をのぞきこんでこう言ったのです。

「あやちゃんは絵が上手でうらやましい。私のなんてこんなだよ。」

私はそれを聞いた時、はっとしました。悪い所しかないと思っていた自分にもとりえがあったことに気が付いたので。自分の良い所を初めて知ったというよりは、自分の悪い所ばかりを見ていて良い所の存在を忘れていた、気付くことができなかつた、という方が正しいと思います。このように自分の悪い所ばかり見ていると自分の良い所の存在に気付けないことがあります。つまり、人との比較にはデメリットがあるのです。育った環境、性格など人と自分は違うので、他の人について自分にはない、なんてものは当たり前なのです。逆に言えば他の人にもないものを自分は持っているとも言えます。

ですが、人と比較することがだめだと言いたいわけではありません。むしろ「成長」という点ではとても大切になると思います。例えば、あの人は足が速いのに自分は…と、人と自分を比較するとします。そこで重要なのが自分はだめだ、で止めてしまわないことです。そこで止めてしまえば、自分に対する自信がなくなるだけになります。ですから、自分はどうすればあの人みたいに

なれるのだろうかと思うことが大切なのです。自分にはないものをどんどん習得していくことを「成長」だと私は考えています。

こうして当時の私は自分より優れている人を目標にすることから始めてみました。そしてその人をよく観察してみました。すると、いろんな発見がありました。足の速い人は足のあげ方、地面のけり方、姿勢、自分と違う所がたくさんあったのです。私がさっそく実践してみると、わずかな差ではあるものの、自己ベストを出すことができました。他にも、得意だった数学に比べて答えがはつきりしていないからという理由で私は国語が苦手でした。そこで、国語が一番好きだという友達になぜなのか聞いてみると、こう答えました。

「国語は他の教科に比べていろんな正解があるから好き。」

私はその考え方があったのかとおどろき、その考え方を持って国語に取り組みました。すると、とても苦手だった文章題にも自信を持って答えを書くことができ、今ではテストで良い点をとれるようにもなりました。

このように、人と比較して自分にはないものに気づき、それを習得することが大切であり、それが成長につながるかと私は考えます。また、自分にも良い所があることを忘れないでほしいです。なので今後、人と自分を比較して悲観的になつてしまふことがあったらそれは、自分の成長のチャンスだと考えてほしいです。そうすれば出来るものが増えていき、もっと生活が豊かになると思います。自分の成長のため、努力をおこたらず、私ももっと良い自分になつていきたいと思えます。